

(表1) 議題

議題1	地球規模課題の解決に向けた国際協力による取組み (低炭素社会の実現に向けた研究開発) エネルギー関連技術を中心に、バイオ燃料等を例に、研究開発のあり方や社会経済上の影響についての議論。
議題2	アフリカ等の開発途上国との科学技術協力 開発途上国のニーズを踏まえた人材開発の推進、水、食料、エネルギーの持続可能な供給、感染症対策、生物多様性等の分野における途上国との科学技術協力のあり方についての議論。
議題3	研究開発のリソースに関する協力 (大規模研究施設、人材の国際流動化) 研究開発リソースの国際共用を促進するため、各国の大規模研究施設の相互利用や情報交換を促進するための方策等についての議論。

(表2) 参加者

G8+EU	日本	岸田文雄 内閣府特命担当大臣 (科学技術政策担当)
	カナダ	リチャード・ディサーニ 産業省次官
	フランス	ヴァレリー・ベクレス 高等教育・研究大臣
	ドイツ	フリーダー・マイヤー＝クラマー 教育研究省次官
	イタリア	ジュゼッペ・ピッツァ 教育・大学研究省次官
	ロシア	アンドレイ・フルセンコ 教育科学大臣
	英国	イアン・ピアソン 科学・イノベーション担当國務大臣
	アメリカ	レイモンド・オーバック エネルギー省次官
	EU	ヤネス・ポトチュニック 科学・研究担当委員
	ブラジル	アウグスト・セザル・ガデーリャ・ヴィエイラ 科学技術省次官
招 聘 国	中国	万鋼 (ワン・ガン) 科学技術部長
	インド	ディルマラチャリ・ラマサミ 科学技術省次官
	メキシコ	ファン・カルロス・ロメロ・ヒックス 国家科学技術審議会長官
	フィリピン	エストリラ・アラバストロ 科学技術庁長官
	韓国	李相睦 (リ・サンモク) 教育科学技術部科学技術政策室長
	南アフリカ	モシブディ・マンガナ 科学技術大臣

G8科学技術大臣会合を開催

(<http://www8.cao.go.jp/cstp/g8.html>)

北海道洞爺湖サミットに先立ち、平成20年6月15日、沖縄県名護市にある万国津梁館において、初のG8科学技術大臣会合が開催されました。G8及び招へい国の計15カ国及びEUの科学技術担当大臣等が一堂に会し、「地球規模の課題解決に向けた国際協力による取組み(低炭素社会の実現に向けた研究開発)」「アフリカ等の開発途上国との科学技術協力」「研究開発リソースにおける協力」について議論しました。議長国の日本から、今後の

題に関する各国の政策やプログラムの情報を取りまとめることを提案し、来年のサミット議長国であるイタリアが第2回会合の開催を表明し、歓迎されました。

サミット関連会合として科学技術大臣会合が開催されるのは今回が初めてのことでしたが、環境エネルギー技術などを議論するのに自然豊かな沖縄を開催地に選んだ意義は大きく、なごやかなムードで率直な議論が行えたことに参加各国から満足の声が上がりました。



万国津梁館でのセッションの様子



沖縄の海を背景に記念撮影



記念撮影の様子



議長を務めた岸田大臣による記者会見